

『第16回いっそう元気！東近江』を、令和4年9月26日に開催しました。これまでの実践や成果をふりかえり、3プロジェクトの成果を確認すると共に今後新たに話したい3つのテーマについて地域支え合いコーディネーターより提案しました。

- ① コロナで切れてしまった、つながりを再構築するには
- ② 身近な地域での見守りを広げるには、困りごとに気づいた時にほっとかない人を増やすには
- ③ 生活（買い物・通院）に必要な移動の課題解決に向けて



懇談「3つのテーマに対して地域や活動の中で感じること」

（専門職から見た地域の状況）

- ・コロナの影響で、サロンや趣味の活動に行けない利用者がいる。
- ・地域や人とのつながりが切れ、認知機能の低下が顕著になり介護保険の申請が増えている。
- ・地域活動を再開できていない地域が多い印象。
- ・デイサービスしかつながりがないが、デイでも密に話ができない。事業所が地域に出ることがなくなり、地域とのつながりはほぼなくなってしまった。事業所としても3年も続くとそれが当たり前、危機感もなくなってしまう印象がある。
- ・サロンに行きたくても行けなくなっている人が増えたと感じている。理由は様々だが、コロナ禍を家で過ごすことが増え、足の筋力が衰え移動が難しくなっている人の話を聞く。
- ・サロンへの移動手段が確保できると、以前のつながりを戻せる人も増える。

（生協の活動の中での気づき）

- ・コロナになって、会わない配達をしている。接触したくない人が増えている。
- ・人と話すことがほとんどないため、1週間に1回でも配達員と話すことを楽しみにしている人もいる。しかし、配達員も他の配達先があるため長時間は話せない。何か話せる機会や場があるといい。
- ・話し相手の相談は、増えていない。床の貼り直しなど、家事支援の中で話ができうれしいという声がある。



（くらしの困りごと）

- ・老々介護でできない家事支援の依頼がある。しかし、生協の地域支え合いサポート（生協）では、介助まではできないため、どこまで手を出していいか、サポータースタッフが悩んでいる。
- ・独居で認知症の方の支援に、ボランティアさんが入ることがすごく難しい。
- ・ゴミ出しは、独居、老々世帯では常に課題。地域のゴミステーションの開錠時間が合わないため、介護保険のサービスやボランティアで支援できないこともある。
- ・ゴミ出しの課題として、草刈りや木の伐採したゴミを地域支え合いサポート（生協）では捨てられない。
- ・ゴミ出しは、行政にも支援がない。サービスでも、ボランティアの協力があっても、最後までできないことが歯がゆい。ごみ問題は大きい。

(今は困っていないが…)

- ・自治会行事やサロンなどに参加されていた人の中には、コロナで行事などがなくなってよかったという声もある。今は元気だから心配いらないかもしれないが、いざ動きづらくなったとき困ったときにどうするのか。つながりがなくなること、どんな困りごとが出てくるのかを知り、自分事として考えてほしい。気づいてもらうきっかけをつくっていく必要がある。「いっそう元気！東近江」でつくった寸劇や未来ノートを活用してもよいのでは。



懇談「3つのテーマ以外に課題に感じること」

(訪問販売等の特殊詐欺の心配)

- ・訪問販売が心配という話が独居、認知症の家族からある。不審な人が訪問されたときなどに、近所の人と一緒に話を聞くことできたいのに。心配して声をかけ合える地域づくりが大事。

(専門職と地域との関わり)

- ・認知症が進行している方を地域で見守られていることを、離れて暮らす家族が知らず、ケアマネが間に入っていない事例がある。地域の中での支え合いをキャッチできる専門職がいれば、家族、本人、ご近所をうまくつなぎ、本人にとって住み良い地域にできるのではないかな。

(第2層同士の交流の場)

- ・「他の第2層はどんなことをしているか知りたい」という声もあり、第2層協議体の交流の場が必要。第1層が第2層と連携していく上で、そのような場づくりも必要だと思う。

懇談「課題解決に向け、いっそう元気！東近江でできること」

(図書館・移動図書館の活用)

- ・図書館として、移動図書館などを活用しながら高齢者のつながり、健康、フレイル予防など、できることをしたい。本の定期便として本と一緒に図書館とのつながりや人のつながりのきっかけにしてもらえたら。

(ゴミ出しの課題)

- ・地域ごとの個別収集は、自治会によってルールが異なる。市の廃棄物対策課もそこには関与ができない。何かできることを行政と一緒に考えていけないか。



(サロンの再開に向けて)

- ・実際に活動されている団体の話を聞くなど、実践事例などがいきわたるようにできないか。
- ・サロン再開へのアプローチには、第2層協議体との連携も必要。地域の方からの働きかけによって、動きも変わってくると思う。その下支えを第1層協議体で考えていければ。

(生きがいづくり)

- ・生きがいや元気になる手立てとして、「推し」を探す。何かその人が熱中できるものを一緒に探してみるのも良いのかも。



みなさんの意見を踏まえ、新たな3つのテーマを中心に、東近江市に必要なしくみや取り組みを考えていきたいと思います。次回の「いっそう元気！東近江」では、具体的な解決方法などについて話し合っていきたいと思います。今後もよろしくお願いします。

